

問 保育所整備事業のスケジュールと、保育所移転基本計画に住民の意見が反映されているのか問う。

答 令和7年度は施設の解体に向けた設計業務、用地の測量を行っている。その後令和8年度中には、施設の解体撤去工事及び新保育所の基本実施設計にも着手する予定である。また、基本計画には、住民からの意見を聴取し生かしている。今後は保育士が日々の保育の中で感じる子どもや保護者のニーズに対応できるように、様々な施設を研究し、新保育所整備に取り組んでいきたい。

問 家庭教育支援チーム「ほっこり」は他の自治体からも研修に来られ注目されている。今後教育委員会との連携が必要だと思うが、この事業の経緯と成果を問う。

答 能勢町における子どもの貧困という課題を解決するため平成29年度に事業を開始した。令和6年度は年長から6年生までのおおよそ220軒の対象家庭のうち、約9割にアプローチできた。今後も教育現場と教育委員会、福祉とが連携し情報共有をして取組みを進めていく。

問 出産子育て応援交付金事業の支援内容と対象者について問う。

答 安心して出産子育てができるよう、妊娠時及び出産後に面談を実施することで育児生活を適時支援するとともに、母子手帳交付時に「出産応援ギフト（5万円）」、出産後の赤ちゃん訪問時に「子育て応援ギフト（5万円）」を給付。また、令和7年度からは出産子育て応援給付金は見直され、妊婦のための支援給付金へと制度改正されたことで、死産や流産の場合も支援対象となる。

まちづくり推進部（みどり環境課・都市整備課・魅力創造課）

問 農空間整備調査研究事業の地域計画の策定状況と今後について問う。

答 農家にアンケート調査を実施し、区長や実行組合長への説明や要望を踏まえ、10年後の地域農業の計画を40地区すべてで策定した。今後は大規模農家の法人化、担い手の集約、大区画化などの変更改定は、順次地域計画を見直す際に対応して行きたい。また5年後10年後跡継ぎがいない状況の中で、新規就農者が参画し、将来的には中心になってもらえるよう法人化を提唱していく考えである。

問 獣害対策の現状と今後の対策を問う。

答 令和6年度の捕獲頭数は、シカが1084頭、イノシシが141頭、アライグマは221頭だった。シカやイノシシは町で処分しているが、個人で解体処分していることもあり、町独自の処分率は約43%となっている。対策としては基本的に捕獲か防除になる。アライグマは、捕獲檻を48台に増設したことで貸出しの待機がなくなった。今後は一軒でも複数貸出しできるように検討したい。また防除柵の申請は21件あり、今後も町単費での購入補助は行っていく。その上で里山の緩衝帯を保全していく必要があると考える。

問 河川維持費について今後の取組みを問う。

答 近年、河川内に木が生えている場所が増えている。河川整備の要望もあり次年度以降は、道路とともに河川にも重点を置いた予算組みをして行きたいと考えている。

問 ふるさと応援寄附金の実績及び、令和6年度が減額した要因と今後の取組みについて問う。

答 実績として寄附金総額から経費と町民が他市町村に寄附した額を差し引くと、680万円余りがプラスとなっている。主力の返礼品がなくなったことが、大きく減額した要因である。現在はサイダー類と、ジビエを活用したペットフードも人気商品となっている。今年度中には町内で体験してその場でふるさと納税という形のサービスを検討し、コト消費を充実させたい。

問 産業立地促進事業の進捗状況について問う。

答 事業を円滑に進めるために権利者の約8割の同意を目標に現在進めている。予定する対象区域の面積は24ヘクタールで、測量は10月から着手する予定で境界、高低差等を測量・設計していきたい。次のステップとして農業をしたい方は移転しその区域は農振農用地として利用する。市街化区域として決まったところに企業を誘致する。